第4回　境川かわまちづくり推進協議会議事要旨

1　開催日時　　令和6年12月24日（火）　午後3時00分～午後5時00分

2　開催場所　　浦安市役所4階　災害対策本部室

3　出 席 者

（委　員）

陣内会長、鶴田副会長、鈴木委員、清家委員、大塚委員、後藤委員、横山委員、内田委員、

石川委員（計9名）

（河川管理者）

千葉県葛南土木事務所　調整課　門脇副主幹

（事務局）

都市整備部　森田次長

道路整備課　赤堀課長、小泉課長補佐、竹内係長、広瀬主任主事、宮崎主任主事、河合主事

（事務局補助）

公益財団法人リバーフロント研究所　土屋、阿部、佐藤、仁田原、利満、坂本

4　傍　　聴　　2名

5　議　　事

（1）かわまちづくりの取組状況について

（2）今後のかわまちづくりの進め方について

6　会議経過

（1）かわまちづくりの取組状況について

事務局よりかわまちづくりの取組状況について説明を行ったのち、各委員より、以下の意見をいただいた。

（会　　長）

・盛り上がっている様子がよく分かった。実際に催し物や活動を実施するにあたって、事務局側と「境川かわまちを進める会」（以下、「進める会」）が、どのような連携をされているのかお聞きしたい。

（委　　員）

・今年度は社会実験ということで、これまで各団体で行ってきた活動を、広げていくという段階だと思っている。現在行っている活動をかわまちづくりの中で行うことで、まわりのサポートもあり活動が拡大している。「水辺で乾杯」も従来より多くの人が集まったため、気にかけている人は多いのだと思った。今後、担い手が増えていけば、さらに活動を拡充できるのではないかと話しているところである。

（委　員）

・境川かわまちづくり計画の基本方針のひとつとして「かつての境川の自然環境と生物の再生」が掲げられている。かつての浦安はほとんどが水田であった。子どもたちが浦安の原風景を体験できる場を創出し、体験を積み重ねて、かわまちづくりが広がっていくと良い。

・今年度からかわまちづくり計画の登録に際して、自然環境の保全再生に関する項目が加わった。安全な河川利用に向けた取組ということで子どもが安全に自然に触れられるかわまちづくりというのがテーマになっている。子どもが水辺に親しめる場所を作るためのハード整備の検討も含めて、かわまちづくりについての議論を行い、目標が達成できれば良い。

（副会長）

・かわまちづくりで自然再生も含めて展開していくということは非常に重要だと考える。

・安全に水辺を使うということを学んだ上で、楽しく利用していくことが重要だと考える。子どもが行きたいと思える水辺ができると、親子で安全を学び、水辺の良さを体感するということにつながっていく。私も各地の水辺を見る際には子どもが来られるような水辺かを考える。

（会　長）

・実際活動を展開していく中で、ハード整備が必要になってくるというのは非常に望ましい展開である。

（委　員）

・ かわまちづくり計画の登録に際して、自然環境の保全再生に関する項目が加わったことにより、パブリックコメント募集時から計画が変更されていると思われる。事務局より改めて説明をお願いしたい。

（事務局）

・パブリックコメントと国の「かわまちづくり」支援制度実施要綱の改正を踏まえ、長期構想の 30 ページに「多自然かわづくりに関する事項」を追加し、親水テラス等の整備については河川景観の保全に配慮した適切な工法とすることを追記した。

・15 ページには、「生物の生息・生育・繁殖の場の保全・創出に関する取組」を追加し、すでに各団体で行なっている取組を継続・充実していくことを追記した。

（委　員）

・資料1の 43 ページの「境川公園等へのキッチンカー等賑わい創出施設の出店回数の増加」について、回数を増加させるにあたり、その担い手は誰を想定しているのか。

（事務局）

・これまでは、進める会に所属する団体が独自に手配している。既に各団体が多くのイベ

ントを開催しているので、今後も進める会、あるいは進める会から派生してもっといろんな団体や民間事業者が参加するように活動を広げていきたいという考えである。

（委　員）
・公募等により、市民に開放されていくという理解でよいか。

（事務局）
・その通りである。今年度は社会実験ということで、進める会の団体を中心に活動を行っていただく。それ以外の民間事業者の公募等については今後検討する。

（委　員）
・SNS についてはPR のツールでしかないため、運営が目的になったら本末転倒だと思う。かわまちづくりの PR 戦略はどうされているか。かわまちづくりに登録された後のストーリーが見えてこない。イベントの開催がメインではなく、自然と近所で集って、語り合ったりする等の集いができるのが理想的と思う。

（委　員）
・ Mizube ミュージックを開催したきっかけは、川辺で演奏している人を見かけたことである。イベント時以外でも、水辺を利活用している風景が日常になると良い。

（委　員）
・誰かが頑張って利活用の機会を提供するのではなく、最終的には、多くの人が自然に川に集うのが理想的である。その最終形までのストーリーを含めた PR 活動（地域紙で広報を行う、インタビュー形式で連載してもらう等）とそのための広報予算が必要と考える。新しい境川の可能性を見出していただければと思う。
・現在の広報は単発的な物が多い。連載でかわまちづくりの特集を組むと、皆さんがシェアしやすいのではないか。

（会　長）
・浦安市にとって境川を軸としたまちづくり、地域づくりというのが根幹だということを位置付けてほしい。

（事務局）
・市としては広報うらやすや行政情報番組等で広報を行っており、進める会のメンバーで地域紙への掲載の調整等を行っている。広報の連続性については、今後の検討課題と考える。

（委　員）
・境川でトライアスロン、イベントに著名人を呼んでくる等、イベント自体に話題性を持たせることで広がっていくことがあるので、大きな広報手段になりえる。

（2）今後のかわまちづくりの進め方について

事務局より今後のかわまちづくりの進め方について説明を行ったのち、各委員より、以下の意見をいただいた。

（会　長）

・資料2の推進体制の見直しについて、かわまちづくり運営の中心を協議会から進める会に移すというのは、進める会の熱心な姿勢を受けての適切な判断だと考える。民間事業者にゆだねず、地元の方々が主体的に運営していく体制を作っている例は全国的にも少ないのではないかと思う。非常に良い体制と考える。

・協議会の役割について、従前は進める会への「指導監督」となっていたが、これを「助言」としたのは良いシフトと考える。協議会は「応援団」に近いイメージである。

（委　員）

・他地域のかわまちづくりの取組として、境川かわまちづくりと同様の体制をとっている地域はあるのか。

（事務局）

・市民活動団体が中心となって資金管理している例は少ない。事業者が資金管理をしている事例が多い。

・当初は、協議会が運営の中心を担うことを想定していたが、今回提案している体制は実際に境川で活動する団体の思いが反映される案になっていると考える。

（委　員）

・現在一緒にかわまちづくりを進めている浦安市や、今後は企業とも協力していければと思う。事業をして得られた資金は河川の課題解決に利用したいと思っているため市民活動団体のみで運営をしていこうとは思っていない。

（会　長）

・2 週間に 1 回開催されているマネジメント会議は、どのような構成で進められているのか。

（委　員）

・会議の構成は市民活動団体、浦安市、リバーフロント研究所から成っている。

（委　員）

・資金管理が入ってくると、いろいろな活動がボランティアで動かなくなってしまうことも懸念される。資金運営については、赤字の場合はいかがするのか。

（会　長）

・ボランティアの枠を超えてしまうのではないかということだと思うが、なかなかクリアにイメージするのは難しいと思う。しかし、概ね検討しイメージを共有しておかないといけない。

（委　員）
・ハード整備も含めて将来境川を中心としたまちづくりが普及していくような形にするために、行政との役割分担を明確にしたうえで連携して取り組んでいく必要がある。

（会　長）
・浦安市民まつりは、市が予算を確保していたのか。

（事務局）
・市民まつりについては別途市が事務局になっている組織があり、予算も確保している。

（会　長）
・全体的に市の関わりがわかりにくい印象がある。

（事務局）
・進める会の現状としては、浦安市や委託先であるリバーフロント研究所が入って運営をしている。将来的には PFI や指定管理等、官民連携制度の導入も見据えてはいるが、既に多岐に渡る市民活動が行われている中でいきなり導入するのは適切でないと思われるため、当面、市が事務局となり運営を行っている。
・しかし、市が入ることで、決裁事務によりスピード感が損なわれる場合や公平性を担保するために自由度が損なわれる等、市がストッパーになってしまう場面も懸念されるため、ゆくゆくは市が別組織として進める会に関与していければ良いと思う。
・資金運営についても同様に当面は市がサポートしていく。将来的には自主的に運営できる体制にしていきたい。

（委　員）
・かわまちを日常化していくには、常に水辺に誰かがいるという拠点を作るといいと思う。（例：昔の浦安の漁師たち、農業をやっていた方々から昔の浦安の話が聞くことができる等）
・行政とタッグを組んで、将来像を含めて面白いまち・川になるということを充実させていかないといけないと思う。

（委　員）
・河川の使用料は、市の口座に入るのか。

（事務局）
・新たに作成する進める会の口座に入れ、収支報告を行うことを想定している。

（委　員）
・進める会が、使用許可や占用料の手続きを担うと、事務経費が掛かりボランティアでは難しいと思う。

（事務局）
・使用許可や占用料の手続きについては、市も協力して行っていく。役割分担の詳細については、今後検討していく。

（事務局）
・詳細については、社会実験を行いながら検討していく。本日は、この形での体制作りをしていきたいということをお披露目させていただいたという認識である。
・浦安市のかわまちづくりは企業のサポートがないという点で他の自治体の事例と異なり、市民の皆さんがこれまで作り上げてきたものが、かわまちづくりを通じてつながってきたというところが一つの強みと思っている。市民の皆様のお力を借りながら、進めていきたいと考えている。

（事務局）
・先程、事例が少ないということで推進が難しいと捉えられたかもしれないので、補足説明させていただきたい。例えば地域住民がイベント時に屋台を出してその収入で運営費用を賄っていたり、自治会がバーベキュー場の管理を行いその資金で運営をしていたりする例はある。事例が少ないといったのは、境川くらい総合的な取組をしている事例が少ないということである。小さい事業から始めていくといことで、今後活動の中で収益を上げ運営や維持管理に利用していくことは実現性のある話だと思う。

（委　員）
・進める会の活動について、収益事業は地域還元を目的にしていること、最終的に自立を目指していく姿勢は素晴らしいと思った。市の関与についてはメリット、デメリットを十分考慮した形で考えていただきたいと思う。

（委　員）
・市が関与することで、個人的にはデメリットが大きくなってしまうように思う。運営も含めて社会実験の一環として進めていくと良い。

（副会長）
・今後行う市役所周辺の整備が、新たな利用や新たな来訪者のきっかけづくりになると良い。そのためにも、今までかわまちづくりに関わってこなかった方にも意見を聞くような機会を作ることも有効だと思う。また、アイデアコンペにより、景観づくりのアイデアを出していただくのも良いと思う。以前ワークショップで子どもたちに絵を書いていただいた際は、川の絵だけでなく、どういうことをしたいかが書かれており、新しいアイデアを読み取るのも面白いと思った。
・水質については、水辺利用にあたっての重要な項目になる。水質にも、透視度やにおい、ゴミの量、水中の足裏の感覚等、項目は様々あるが、市民が気になる項目や改善したい項目を明確にし、共有できる指標が立てられるとさらに良いと思う。

（委　員）

・市民は、西水門と東水門で仕切られた区間について、水の流れが少ないため水質が悪いと考えていると思う。実際、東水門より下流と違い、水門間は川が緑色に見えるので、「色」で汚いと判断していると思う。汚いと思う人が社会実験に一緒に参加してもらえると良い。

（副会長）
・社会実験をすることで、水門や排水機場の操作によりどの程度水質が変わるのかという比較にもつながる。

（委　員）
・市が実施している水質調査では環境基準を満たしているので、なぜ透明度が悪いのか、なぜ臭いがするのかを共有できればと思う。プールみたいなものを作り、透明度の実験ができるといい。

（委　員）
・境川クリーンアップの活動を嬉しく思っている。
・ハード整備の際は、高齢者等が安全にアクセスできるよう階段等に手すりを付けてほしい。
・河川のハード整備に際しては、市のまちづくりとの連携が必要である。河川管理者として市からの要望を受け入れる体制はあるか。

（河川管理者）
・常日頃から浦安市からの意見を聞く体制はある。意見や要望の内容や実施可否を確認した上で、出来る限り協力したいと考える。

（事務局）
・補足だが、運営の話で赤字になったらどうするという話について、例として岡崎市では 5 年間市が事務局として直接運営の支援を行い、軌道に乗った段階で民間による運営に切り替え、現在では市の補助もなく、自立している。

（事務局）
・次回の協議会については、令和 7 年 3 月 24 日（月）18 時から予定している。開催通知や資料については、会議 1 週間前にお送りする。

（会　長）
・本日はこれで議事を終了する。

問い合わせ先　都市整備部　道路整備課　河川海岸係　　電話：047-712-6577